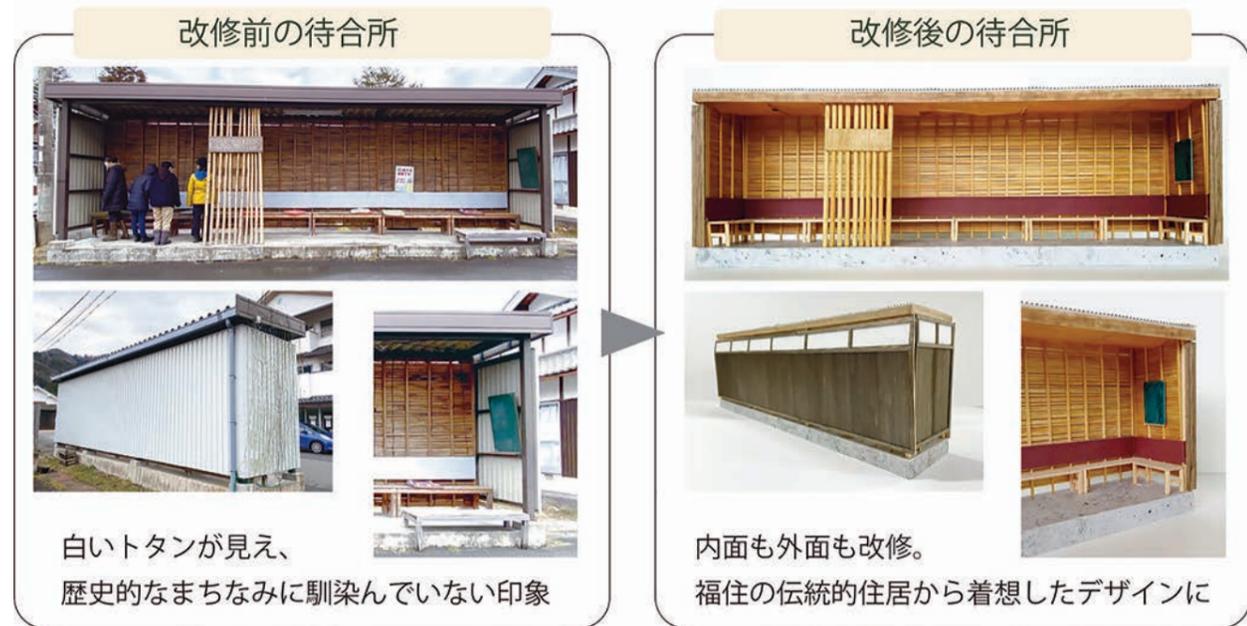


竹資源を活用したまちなみデザイン(丹波篠山市福住)



改修前の待合所
白いタンが見え、
歴史的なまちなみに馴染んでいない印象

改修後の待合所
内面も外面も改修。
福住の伝統的住居から着想したデザインに

竹のバス停 提案写真

#重要伝統的建造物群保存地区 #放置竹林 #地域住民参加型

目的

丹波篠山市で課題となっている放置竹林の解決策として、間伐した竹材を重要伝統的建造物群保存地区のまちなみデザインに活用することを提案し、実践する

活動の概要

- 主な連携先
福住地区まちづくり協議会/篠山東雲高校/NPO法人SHUKUBA/丹波篠山市/関西大学住環境デザイン研究室
- 活動地域
兵庫県丹波篠山市
- 活動期間
2021年度～継続中
- 活動資金
地域連携活動に対する補助事業、丹波県民局からの活動助成

連携にいたる経緯

2016年に本学の住環境デザイン研究室の宮地茉莉助教が篠山東雲高校、丹波篠山市地域おこし協力隊と連携し、竹資源を用いたバス停待合所のデザインプロジェクトを企画し2020年までに3つの待合所を改修。2021年より住環境デザイン研究室も参画し、まちなみデザインの提案まで活動の幅を広げている。



活動内容

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている丹波篠山市の福住地区において、課題となっている放置竹林の解決策として間伐した竹をバス停待合所の修景に用いることを提案、2022年にバス停「福住」待合所の改修を実施した。福住地区まちづくり協議会、篠山東雲高校、丹波篠山市地域おこし協力隊と住環境デザイン研究室が連携した高大地域連携活動であり、2022年度からは丹波県民局からも活動助成を得ている。

住環境デザイン研究室が中心となり、まちづくり協議会の協力の下、さまざまなワークショップを企画し、篠山東雲高校の生徒と共同で竹林の整備、竹の加工、バス停待合所の内壁の取り付け、割竹を座面としたベンチの製作を行なった。まちなみに対する提案ではまちなみデザインサーベ이를高校生と実施し、「割竹を意匠に用いたプランター」の試作品を製作、高校の文化祭、福住伝建地区選定10周年記念フォーラムで展示した。

活動の成果

- 竹材の新たな活用法の提案
- 重要伝統的建造物群保存地区の修景
- 学生の実践的な学びの場の提供

今後の課題・目標・展開の可能性

- 竹資源を活用したまちなみデザインの新たな提案と実践
- 竹資源を用いたバス停待合所の維持改修の持続的な仕組みづくり
- 重要伝統的建造物群保存地区における高大連携活動の推進

連携先からの一言

高齢化、過疎化が進む'福住'の片田舎で、農具としての価値を忘れ去られた'竹'を活かす「竹のバス停プロジェクト」は、まちあるきや東雲高との交流を、報告会やまち協月刊誌により情報発信され、'福住'を活性化しています。
(福住地区まちづくり協議会より)

環境都市工学部 助教 宮地 茉莉 Miyaji Mari



国内外においてエンジニアが介入しないセルフビルド建築に関する調査・実践研究に取り組み、日本全国で竹資源を用いた農業ハウス(Bamboo Green-House)の普及活動・製作指導も行なっています。

